

山口県公立大学法人評価委員会（第27回）の審議要旨

- 1 日 時 平成28年7月11日（月） 14:00～15:40
- 2 場 所 公立大学法人山口県立大学 5号館会議室
- 3 出席委員 辻委員長、岸本委員、樋口委員、広中委員、二木委員（委員長以外50音順）
《今回互選により辻委員が委員長へ就任》
- 4 審議事項
(1) 平成27年度における法人の業務の実績に関する評価について
(2) 平成27年度における法人の財務諸表等について
- 5 審議要旨 [● 委員 ◆ 委員長 □ 法人 △事務局]

【 教育 】

- インターローカル人材に2015年度卒業生15名が認定されているが、認定する時の基準を教えてもらいたい。山口県立大学が今後どうしていくかを考えた時に、留学の成果を地域に還元する、地域の人たちと何か共に歩んでいくということかなと思う。
- 学生のこれまでの成績、留学経験、TOEIC等語学検定試験の結果等を踏まえて、学部で基準を満たした学生をインターローカル人材として認定している。
- 成績、留学経験、TOEIC等語学検定試験の結果等は学部であるとかゼミの先生が推薦して学部で承認してどこかで機関決定するといった手順になっているのか。
- 今示したような色々な基準がeポートフォリオ上にあり、点数が自動的に換算されて積み重なった合計点数が150点以上になれば、その資料を学部の教授会に出して、間違いがないか確認した上で認定するという仕組みを採っている。教授会で認定した学生は学長へ上申し、学長から認定を受けることとなっており、卒業式の時に認定証を授与することとなっている。
- 証書と賞状を渡すという以外に奨学金若しくは奨励金を渡すということはないのか。
- ない。
- 大学ホームページをリニューアルしたとのことであるが、スマートフォン対応はしているのか。

□ 対応していない。

● すべての広報に対してスマートフォン対応はできないが、入試情報に関しては、スマートフォン対応をしているところもある。山口県が他県に比してコンピューターの普及率が低いということもあり、高校生に見てもらうにはどうしてもスマートフォン対応が必要になると思う。学内で検討されたい。

□ 入学者選抜委員会で入試広報を担当しているが、スマートフォン対応も議論になってきている。これを早急に対応しなければならないということだが、ホームページを統一したところであり、次の段階でスマートフォン対応を検討しているが、今ご意見をいただいた入試情報は非常に重要であることから、学内に持ち帰ってまた委員会で検討したい。

◆ ホームページは、学内で作成しているのか、それとも外注か。

□ フレームワークは外注しているが、中身は学内で作成している。

◆ 内部で作っていると堅いホームページになりがち。先ほどの続きだが、最近の大学生はパソコンを持っていない。今の若者はパソコンは面倒なので、スマートフォンを使っている。それだけスマートフォンの情報は大事になっている。今の学生は本を買わないし、パソコンも持ってない。インターネットで情報を提供しているだけでは学生は見ない。

● スマートフォンでパワーポイントを作っている学生もいる。

● ホームページは学生だけが見るものではなく、保護者の方だったり、地域の方も見るので、もう少し学校の様子が見えるようにしてほしい。他大学ではライブカメラを設置して、季節の移り変わりがわかるようにしていたり、学生の動きが見えたりするものもある。そういったものを見ることができると、保護者や地域の方々も大学をより身近に感じるのではないか。

□ ホームページ上に大学祭やイベントの動画も公開し、ある程度学内の様子が見えるように努めている。

● グローバル人材育成事業において、eポートフォリオの運用はどのようにしているのか。また、2018年問題等の関係で評価方針や内部質保証を進めていくための基本方針を策定されているが、具体的にはどういうことか。

□ 学生の学修成果を集積して4年間記録するというものがeポートフォリオであり、国際文化学部ではインターネット上で記録するようになっている。成績のほか、いろいろな活

動への参加履歴、語学の毎学期ごとの目標と結果、インターローカル人材の認定に係る取組状況、それから本学生全員に課している国際的なコミュニケーション力や地域に出る力など、さまざまなシートがあり、これらをすべて学生が入力し、4月と10月に教員がそれを見て学生と面談の時間をもって指導し、前学期の振り返りを行い、今学期の目標を立てるという指導の形を採っている。

今年度はすべての学生に展開することになっている。学士力、つまり4年で卒業する時に身につける必要がある能力を、成績にいろいろな係数をかけ、それぞれに力が身についたかどうか客観的に図る指標を基に学生が自己評価し、それについて教員がコメントを書いていくという仕組みであり、この仕組みをFDで紹介し、10月から全学に展開することとしている。

次に内部質保証については、さまざまな大学の営み、教育などをデータで集積して、それを見ながら改善に役立てるというPDCAサイクルがあるが、これについて本学の方針を定めて、データを点検評価委員会で一元化し、学部に加え全学的にもPDCAサイクルが回っているか確認している。

今年度、大学基準協会の評価報告書を作り、来年評価を受ける。それを踏まえて県の評価委員会においても、第3期中期目標・中期計画の策定にかかる審議を行うこととなっているので、すべてのデータが集約される。これを機会に部局で毎年振り返りができるような仕組みを整備するために評価方針を策定した。

◆ 来年には新しい目標を策定するのか。

□ 今は第2期中期目標期間の5か年目であり、平成30年度からの第3期中期目標期間に向けて今年度後半から来年度に向けて作業を行うこととなる。

◆ 昨年も一昨年も社会福祉士国家試験合格率が他の国家試験よりも低い。例えば私立大学では受験する資格のない学生は試験を受けさせないということをやっている。そうでもしないと、計画を作った時は、結構よい合格率であったが、その後の時代変化の中で、受験者側のニーズが低くなってしまうと、同じやり方では合格率がどんどん低くなってしまい、最後には低い合格率で終わってしまうと思う。

他大学では国家試験に向けて補習を行うが、補習にこなかった学生は試験を受けさせないところもある。

試験を受ける権利があっても、その対策を怠れば大体不合格となる。補習等を実施した場合に、出席率の悪い学生については合格が難しく、一方で試験は年々難しくなっており合格しない。

公共性の高い県立大学では対応が難しいかもしれないが、ある程度実績を上げようとすると多少の不平等さがあってもやむをえないのではないか。そうでもしないと試験が難しくなれば、もっと合格率は下がる。そうなれば、この中期目標期間の目標の設定が高すぎたということになる。評価の観点からすると、合格率が上がるような対策を検討する必要があるのではないか。試験対策を一所懸命やっている学生のモチベーション低下につながるおそれもある。

□ 今までは社会福祉学部のポリシーとして、全員受験することとしてきている。それを見直す時期に来ているとも思われるが、評価の中で一旦立てた目標の考え方を途中で変更するという事は可能なのか？

● 色々な補習などをやっても学生のモチベーションが上がらないと試験には合格しない。他の国家試験との並びで目標を設定しているとも思われる。学生について少し篩にかけていくのか、やり方を考えていくのかについては中期目標期間中であってもどこかで機関決定すればよいので、最終的には学長の決断でよいと思われる。社会福祉士の国家資格がなくても福祉職場への就職は可能であり、この試験への動機づけが難しいところであると思う。

□ 年末に補習などもやっているが、モチベーションを高めることが重要。

● 貸借対照表の流動比率が前年度よりも上がっており、高い比率で安定的に推移していることから健全な財政運営がなされている。負債の項目にある寄附金債務とは何か。

□ 寄附金はいただいた時の目的や用途に応じて全額を負債計上することとなっており、費用が発生するとともに同額を収益計上する仕組みである。寄附をいただいたけれども費用化されておらず負債計上したままのものが寄附金債務である。

● 2018年問題があり、これから18歳人口が急激に減少していく中で、県立大学の国際文化学科は入学定員超過率が1.19となっている。また、地域貢献の関係で入学者の県内生割合を60%に上げることを目指している。こうした状況について、県内私学からすれば入学者の確保が厳しくなるという印象を持っている。県立大学が地域貢献するということは重要であるが、一方で県内高等教育機関と連携した地域貢献をする中で県立大学の役割や行動が他の大学に及ぼす影響も考慮して大学運営を行ってほしい。

□ 山口県全体として県内高等教育機関への進学促進を図りつつ、県内大学の連携を深めていく必要がある。

【まとめ】

◆ 各委員から多くの御意見をいただいたところで、審議事項については次回への継続審議とする。

△ 今後、事務局において委員の意見を踏まえて評価書素案を作成し、次回の評価委員会で審議をお願いしたいと考えているので、各委員の御協力をお願いする。

以上